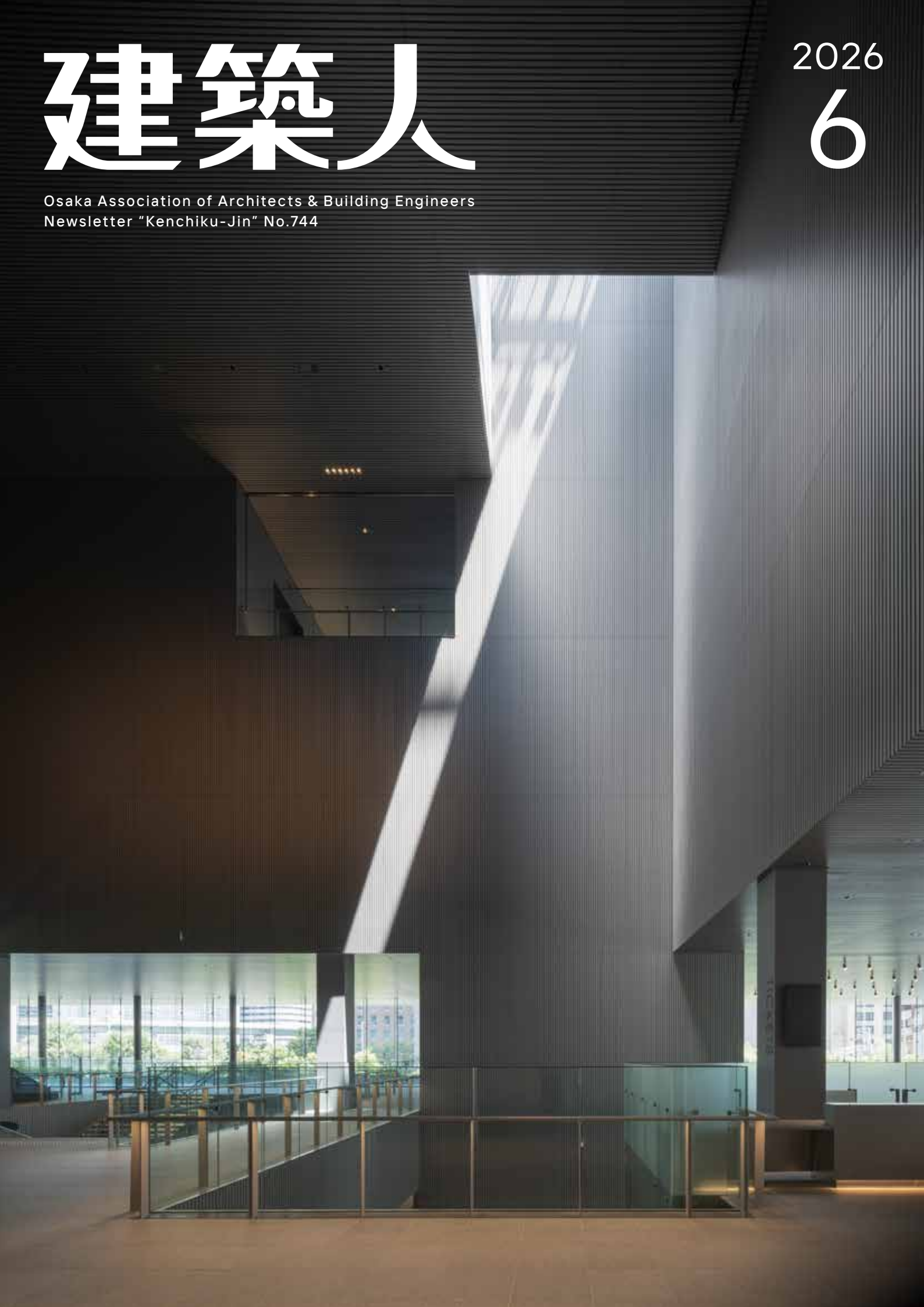


# 建築人

2026

6

Osaka Association of Architects & Building Engineers  
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.744





このページの新企画「建築人x写真人」の掲載希望建築物を募集しています。  
本企画は会員が手がけた建築作品を、写真家MOAIによる独自の視点と表現で、  
どのように“料理”されるかを楽しんでいただく企画です。  
写真家MOAIの作風は、ハイコントラストや強めの色彩によって日常を非日常へと変換します。  
建築が竣工写真などとは大きく印象が異なる“新しい姿”に生まれ変わることを  
楽しんで頂ける方を歓迎いたします。  
皆さまが関わられた建築が、写真家の視点で新たな物語を紡いでいきます。  
会員の皆さまの応募をお待ちしています。

#### お知らせ

「MOAIの写真展」開催します。

こちらで連載させていただいております作品の新作です。

6/9(火)～6/20(土)

アンズ舎 大阪市北区天神橋1-18-19

12:00～19:00(火水木) 12:00～21:00(金土) ※最終日は17:00まで

定休日 日曜日 月曜日 入場料 お1人様1オーダー or 1品テイクアウト

#### 「MOAIの独言」

日々に引っかけた光景やモノをスマホで撮影、加工した作品

私が惹かれるのは

蓄積された時間が感じられるモノや光景

自然の造形物

今その時しかない光

固定概念にとらわれず自由に感じてください

Photographer MOAI

岩手県盛岡市出身

1985年大阪芸術大学卒

同年広告企画制作会社にカメラマンとして入社

あらゆる業種業態のクライアントの撮影に携わる

1996年フリーランスとなりPhoto Office MOAI設立

大阪を拠点に広告写真を中心に活動中

# 建築人

2026.06 No.744

Osaka Association of Architects & Building Engineers  
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「大阪中之島美術館」2021年

第69回 大阪建築コンクール 大阪府知事賞 受賞作品

設計：遠藤克彦建築研究所

施工：銭高・大鉄・藤木特定建設工事共同企業体

撮影：上田 宏

都市との回遊性、接続性を意識し、地域動線の結節点となる「地形」の上に、美術館機能を集約した「矩形」をデザイン。「パッサージュ」と名付けられたロビー空間は上階まで立体的に連続している。各立面に穿たれた開口部によって、美術鑑賞だけではなく、新しい都市体験が可能となる美術館を計画している。

2 MOAIの独言

4 会長退任の挨拶

5 会長就任の挨拶

6 Gallery 建築作品紹介

「七重」

設計：藤原・室 建築設計事務所

施工：山陽建設工業

「カトリック三田教会司祭館・信徒館」

設計：森崎建築設計事務所

施工：岡崎建設

8 第69回大阪建築コンクール入賞発表

12 動静レポート

13 Topics

14 Information

16 News of Note

18 記憶の建築

「旧・横浜市庁舎(現・OMO七横浜)」1959年竣工 / 2026年改修  
失われゆく都市デザインの思想と哲学 / 松隈 洋

建築人 No.744 2026年6月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：松下典央

委員長：武藤優哉

編集人：昇 勇 石貫方子 岩岸克浩

荻窪伸彦 笠松哲司 河野 学

大松俊祐 中北 力 春岡須磨子

事務局：辻本和人 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和8年6月1日発行

発行人：会長／上田茂久

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961

# 会長退任の挨拶



岡本森廣

## 1) はじめに

公益社団法人大阪府建築士会の活動に対し、会員及び関係各位には平素よりご理解とご支援を賜り心から感謝を申し上げます。本会は創立75年目に踏み出しましたが、置かれた市民社会経済構造は大きく激変の真只中で其の潮流は加速していることを身近で実感として受け止めて居ります。

## 2) 国際的危機の拡大と規範・秩序の乱れ

世界に目を向けると地政学的地域紛争が多頻発・長期化、特に

- ①国際秩序を脅かし様々な環境を揺れ動かすロシアのウクライナ侵攻激化、4年の長期化と解決の糸口不透明
- ②ハマスによるイスラエルへの越境攻撃とイスラエル軍によるガザへの侵攻(死者4万人強)、イランへのアメリカ・イスラエルの戦争や中東の激動からの原油等資源のサプライチェーンの寸断
- ③相互関税の応酬・米中覇権争いの激化と、中国の海洋進出は危機的で影響が大
- ④地震・津波、台風・豪雨・干ばつ・火山噴火・山火事等の自然災害の多頻発化・甚大化が顕著
- ⑤多層的・複合的で重層的に影響し合い、エネルギー枯渇や高騰、食糧危機、資本財・資源危機に襲われ大間で宇宙・海洋・地下探鉱競争が熾烈化

## 3) 国内における現状と課題

世界的には人口急増加である中、日本は急激な少子高齢化・人口減少で国際社会で類を見ませんが、加えて人手不足や不確実性が深まって居ります。急激な人口減少は経済規模の縮小や国際社会での比較競争力低下に喘ぎ、更には失われた30年とする停滞に覆われ、多様なイノベーションや意識改革、制度設計等の変革が強く求められるゆえんです。だが、そう言

いながら日本は国際的信頼が高く、課題先進国であることが今迄に様々な課題に早く立ち向かい解決してきた優位性を持っております。

## 4) 大阪府建築士会の取り組みと展望

本会は、昨年創立74周年を迎え市民社会の課題に率先して取り組む新たな第一歩を踏み出すことをプレゼンスし、当会は何処にも引けを取らない貴重な財産・資産として①75年の歴史、②蓄積された知識と経験、③様々な社会貢献活動、④災害時の対応やCPD、⑤様々なジャンルに存在する会員(設計・施工、行政、学識、メーカー、商社、金融・損保、会社営繕、宅建士、弁護士等)、⑥2000名強の会員総数、⑦表彰制度、⑧国際的な協定・覚書、⑨弁護士会・日本建築材料協会等他団体との協定、これを複合的に統合化し繋がりを深めながら効率的に活かしていくべきと考えます。

この難局を乗り越え、公益法人としての社会貢献の責務を果たしながら会員建築士の資質をスキルアップし、併せて業務環境を整え、業績も向上できることを目的と思料致します。

## 5) 会長退任に当たって

7年の副会長と14年の任期中にある会長を退任するのは①昨年の万博に合わせて招致した全国大会が成功裏に終え、②公益法人移行後、初の定款変更を行い、③時代の激変に対応する組織改編が出来ましたので、そうであれば新しい方に会長になって頂く方が望ましいと判断しました。

14年の活動を振り返ると

- ①公益社団法人に移行し、建築専門家としての知見を活かした社会的課題解決に貢献
- ②本会組織の段階的スリム化・変革
- ③大阪府内43市町村長を9年に亘り恒例訪問し、行政と協働する本会活動の推進・拡大
- ④約300人に上る公職派遣の実績で行政支

援を強化

- ⑤国や自治体並びに連合会・諸団体からの受託事業の拡大
- ⑥耐震診断及び耐震補強計画に対する建築物耐震評価委員会の設置
- ⑦大学・高専における優秀学生表彰の推進
- ⑧釜山広域市建築士会(40年間の連携実績)、香港工業総会、上海市建築学会、ホーチミン市建築士会、新北市建築師公會、ウクライナ全国建築家連合会との各協定、インドネシア・ミャンマーとの協定予備活動に基づく国際化
- ⑨大阪弁護士会、日本建築材料協会、大阪府宅地建物取引業協会、全日本不動産協会大阪府本部、大阪府不動産鑑定士協会との各協定に基づく協働活動
- ⑩日本損害鑑定協会との協定に基づく大災害時の損害鑑定業務に寄与する活動
- ⑪建築専門紙記者と定例意見交換会
- ⑫消費者団体と定例意見交換会
- ⑬近畿圏内の建築系大学・高専・専門学校の住宅課題のみを対象とした近畿学生住宅大賞の創設
- ⑭累積1億1千万円の負債の解消
- ⑮2025年万博に全日本不動産協会とコンペ共催で出展及び建築士会全国大会「おおさか大会」の誘致
- ⑯ミャンマー地震の技術支援
- ⑰50年後を予測したバックキャストした将来ビジョンの策定

## 6) 最後に

今後は一会員として活動を引き続き担うと共に、特に命を守る一室断熱・耐震、国際活動には出来る範囲で臨みたいと考えます。長い間、深い理解と支援・協力等々を頂きました会員・事務局や関係する団体・関係者に深い感謝を申し上げます。ありがとうございました。

# 会長就任の挨拶



上田茂久

このたび、大阪府建築士会の会長を拝命いたしました。  
長年にわたり本会の活動を支えてこられた諸先輩方、そして関係各位に深く敬意を表するとともに、その責任の重さを強く感じております。

本会はこれまで、「すべての建築士を支えること」「建築士の職能を活かして社会に貢献すること」を活動の柱として歩んでまいりました。私は会長として、この二本の柱を相互に高め合いながら、より実効性のある活動へと発展させてまいります。

まず、建築士の支援についてです。建築士が社会から信頼され、必要とされ続けるためには、専門性の維持・向上と、その価値が社会に正しく伝わる仕組みが不可欠です。本会では、CPD制度を通じた継続的な研鑽の促進、研修会・講習会の開催、さらには優れた活動や功績を顕彰する表彰制度などを通じて、建築士一人ひとりの成長を支えてまいりました。今後は、これらの取組を体系的に整理し、会員にとって活用しやすい仕組みへと再構築するとともに、その成果や意義を社会に分かりやすく発信してまいります。建築士の専門性や社会的役割を「見える化」し、職能の価値をより広く社会に伝えていくことが重要であると考えています。

次に、社会貢献についてです。大阪府建築士会は、府民・市民の暮らしに寄り添う公益活動を、日常的かつ継続的に行ってまいりました。建築相談は、住まいや建築に関する不安や疑問に専門家として応える、

身近で重要な窓口です。また、地域に根差した木造住宅の耐震診断や耐震化の推進、まちづくり活動への参画は、地域の安全と住環境の質の向上に寄与しています。

さらに、大規模災害時における応急危険度判定や被災後の継続的な復旧支援体制の構築は、人命と財産を守るために欠かすことのできない社会的責務です。これらの活動は、長年の実績と組織力、そして高い専門性を有する建築士会だからこそ、安定して果たしてこられた役割であると認識しています。

また、現代の建築は、一人の建築士だけで完成するものではありません。意匠、構造、設備、施工、行政、研究者、メーカーなど、多くの専門家が協働してつくり上げる「チームでつくる文化」によって成り立っています。本会には、設計者のみならず、大学関係者、行政職員、施工者、メーカーなど、多様な分野の専門家が会員として集っています。

このような幅広い人材が集うことは本会の大きな強みであり、専門分野を越えた知識や経験の交流を通じて、複雑化・高度化する社会課題に対して、建築士が連携して応えていくことのできる組織であると考えています。今後は、このネットワークをさらに活かし、分野横断的な取組や新たな価値創出にもつなげてまいります。

一方で、現実的な課題も明確になっています。会員数の減少に伴う財政基盤の不安定さ、活動を担う人材の不足、さらにはリーダーとして積極的に関わっていただいても継続的な担い手として育ちにくい構造的な課題です。これまでの善意や奉仕に大きく依存した運営だけでは、持続性に限界があることも率直に認識しなければなりません。今後

は、役割の明確化や負担の適正化、活動の効率化を図りながら、より多くの会員が関わりやすい環境づくりを進めていく必要があります。

大阪府建築士会は公益法人として、行政や関係機関との間に長年培ってきた信頼関係と協働の実績を有しています。私はこの立場を活かし、社会から求められる役割を的確に果たし続けることで、建築士会の活動基盤をより安定したものへと整えてまいります。同時に、会員の皆さまが耐震、災害対応、相談業務などの活動を通じて専門性を高め、その能力が社会から正当に評価される環境づくりにも取り組んでまいります。活動が自己研鑽と社会貢献の双方につながる仕組みを整えることが、建築士会の持続的発展に不可欠であると考えています。

建築士一人ひとりが、誇りとやりがいを持って社会に関わり、その積み重ねが建築士会全体の力となる。その好循環を生み出す「場」と「仕組み」を整えることが、私の果たすべき役割です。

会員の皆さま、そして関係するすべての方々と対話を重ねながら、現実的で持続可能な建築士会の運営を進めてまいります。今後とも大阪府建築士会へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。私の所信表明といたします。



各階に庭と室内を繋ぐ日本建築の「中間領域」を配置し、その空間作法を積層型の宿泊施設へと再構築した計画です。大阪・日本橋の喧騒に  
 応答し、下層階では周辺の視線を遮りつつ、庭を介して適度な抜けを  
 確保した「籠る」領域を構築しました。上層へ向かうにつれ、各階の庭  
 の背景となる壁を縮小し、障子やガラスの開口割合を増やすことで、空  
 へと連続するシークエンスを形成しています。  
 全階において、三方向に伸びる庇と室内から庭へ続く檜材の天井が内  
 外の境界を曖昧にし、この変容を垂直に繋ぎます。街の喧騒から空への  
 解放へと至る立体的な宿泊体験として、現代の都市に提示しました。

所在地：大阪市浪速区  
 用途：宿泊施設  
 竣工：2026.02  
 構造規模：鉄骨造  
 地上7階  
 敷地面積：162.73㎡  
 建築面積：116.84㎡  
 延床面積：587.74㎡  
 写真：studioREM  
 平 桂弥



戦後すぐの1952年、この地で献堂された聖堂周辺の再整備計画の一環である。当該建築物は聖堂との法面（約40度）を挟んだ4m下のフラットな場所に計画。建築意匠は誰でも受け入れる教会としての判りやすさの形象として、ゲート性を持ったシンボリックな壁とマッシブな箱とした。

特徴的なのは土地利用の工夫で生み出したオープンスペース。聖堂の東スペース、ウッドデッキによって平面化された法面、新建築の開放廊下と一体的な空間利用を可能とした。この空間は、教会のバザーなどの活動の場として活用されることとなる。また、この敷地内段差も屋外階段・滑り台を生み、訪れた子供達も活発に遊ぶことが出来る空間をも生みだした。

所在地：兵庫県三田市  
用途：教会  
竣工：2026.03  
構造規模：RC造  
地上2階  
敷地面積：2,382㎡  
建築面積：185㎡  
延床面積：304㎡  
写真：上段・中段右/森崎輝行  
中段左・下段/平井美行

## ■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞

大阪中之島美術館  
マツオコーポレーション本社ビル

遠藤克彦  
出江 潤・浅野大輔・笠井健太  
渡邊由美子

## 特 別 賞

2025年日本国際博覧会 大屋根リング

藤本壮介・下田康晴・神吉良輔  
黒川宗範・三谷勝章・加地則之  
鈴木星穂

## 奨 励 賞

鶴橋の立ち寄り場 ヨルン

山口陽登

## ■渡辺節賞部門 渡辺節賞

奈良の家

金井田雄介

### 趣旨

建築士はその職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、ひいては地域文化の振興にも寄与していく必要があり、その責務は重大である。大阪建築コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の設計者を表彰する。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者をたたえ、さらなる発展を望むものである。

### 募集範囲

2020年1月1日から2025年12月31日の間に竣工し、完了検査済証の交付を受けた建築物

\* 建築確認申請不要物件は完了検査済証不要

\* 竣工年月日は工事完了時

### ●大阪府知事賞部門

応募資格：設計者は①本会正会員または大阪府在住もしくは在勤の建築士、または、②大阪府以外の建築士会所属の建築士  
対象建築：建物の種類・規模は問わない  
建築位置：(①の場合)近畿二府四県、(②の場合)大阪府内に限る

### ●渡辺節賞部門

応募資格：設計者は①本会正会員または大阪府在住もしくは在勤の建築士、または、②大阪府以外の建築士会所属の建築士  
完了検査済証発行日現在39歳以下  
対象建築：建物の種類・規模は問わない  
建築位置：(①の場合)近畿二府四県、(②の場合)大阪府内に限る

### 審査委員会

委員長 倉方俊輔 (大阪公立大学教授)

委員 浅尾 宏 (大阪府都市整備部住宅建築局公共建築室長)  
※50音順

田口雅一 (大阪芸術大学教授、TAPS建築構造計画事務所所長)

松本尚子 (京都芸術大学准教授)

宮原克昇 (近畿大学准教授)

### 審査

応募数 大阪府知事賞部門 39点  
渡辺節賞部門 5点

審査委員会 4回

### ●第1次審査

2月24日 書類・図面、写真によって、大阪府知事賞部門9点、渡辺節賞部門2点を選考

### ●第2次審査

3月2日、3月16日 第1次審査通過作品について現地審査を2日間実施

### ●最終審査

3月16日 第2次審査終了後に実施  
大阪府知事賞部門：大阪府知事賞2点、  
大阪府知事賞部門：特別賞1点、  
大阪府知事賞部門：奨励賞1点、  
渡辺節賞部門：渡辺節賞1点を選出

### 表彰式

日程 令和8年5月20日(水)

本会定時総会式典席上

会場 KKR ホテル大阪

### 審査経過並びに総評



審査委員長  
倉方俊輔

第69回「大阪建築コンクール」には多くの応募作品が寄せられ、現地審査を通じて多彩な発見があった。審査員による議論の成果として、大阪府知事賞部門の大阪府知事賞2点、特別賞1点、奨励賞1点、ならびに渡辺節賞部門の渡辺節賞1点を、ここに発表できることを嬉しく思う。

本年度は、大阪府知事賞部門に39点、渡辺節賞部門に5点の応募があった。応募書類にもとづき第一次審査を行い、11点を第二次審査(現地審査)の対象とした。

大阪府知事賞を受賞した「大阪中之島美術館」は、2016～17年に実施された公募型設計競技において最優秀案として選定され、基本設計・実施設計・工事監理を経て、2021年6月に竣工、2022年2月に開館した。すでにその存在は大阪における新たなランドマークであり、文化的な中心地の一つとして定着したと言ってよい。今回の現地審査で改めて感じられたのは、その機能性と美学だった。「大阪中之島美術館」は、将来の周辺環境から河川氾濫による浸水リスク、要求される展示空間から

職員動線に至るまでを、環境装置とともに箱型のヴォリュームの中に合理的に収めた装置である。光の中で立ち現れる表面のテクスチャーに至るまで設計されることによって、安心して身を委ねることのできる場を実現している。機能的であることも、美しいと感じることも、作り手の表現や見る側の主観性を超えた公共性を帯びる。時代の中で生まれながら時代を超える建築といった感は、まさに伝統ある大阪建築コンクールの賞にふさわしい。

もう一つの大阪府知事賞である「マツオコーポレーション本社ビル」も、古い／新しいといった安直な感想を寄せ付けない佇まいを見せる。質感あるコンクリートブロックが積み上げられた社屋は、1936

年の創業から変わらない敷地に建ちながら、使われる建造物として内外で働く人びとに馴染みつつ、毅然とした姿を現している。設計者はコンクリートブロックを、原料となる骨材やスラグを地域で調達し、消費地も生産地近郊とする地産地消の性格を持った建築素材と捉えた。そして全体を鉄筋コンクリート組積造とすることで、コンクリートの臥梁や柱を現すことなく、耐力壁を二列に並べた二重壁構造と分棟形式の採用によって、閉塞感のない空間を成立させている。コンクリートブロックの隙間から光が落ち、風が抜け、人びとが行き交う。現地で感服させられるのは、ただただコンクリートブロックが存在しているように見せるための、細やかな設計の集積である。自然や人の動きが素材を引き立て、全体は超然としている。その建築らしさが、生業を照らし出す。

今年の大阪府知事賞部門では別枠を設け、「2025年日本国際博覧会 大屋根リング」を特別賞とするのが、この賞にふさわ

しいということで審査員全員の見解は一致した。閉幕から5か月を迎えた大阪・関西万博の元会場では、パビリオンの撤去がおおむね進み、巨大な円を描く大屋根リングの全貌は、かえて会期中よりも把握しやすくなっていた。これは恒久的な建造物として計画されたものではなく、社会的な存在意義も他の応募作品とは大きく異なる。今回、現地で大屋根リングが丁寧に解体されていく様子を目の当たりにし、担当者の説明を受けることで、建設過程への理解をより深めることができた。従来に類例のない計画を、建設から解体までのプロセスも含めて、複数の設計者・施工会社等の協力によって成し遂げ、将来の建設にも寄与するものとして、ここに特別賞を贈る。

「鶴橋の立ち寄り場 ヨルン」もまた、大阪府知事賞部門の中で同列には扱いつらい一方、将来性に大きく期待できることから、奨励賞を授与することとした。空き家になっていた長屋の1軒を、近隣住民が立ち

寄れる場所へコンバージョンしたもので、側面に大きな開口を穿ったことに改修の姿勢がよく現れている。この側面は、隣地が10年以上前に長屋から切り離され、更地として暫定利用されているがゆえに街に出現し続けている。そこに手をかけ、整えるというアクションが次の動向に働きかけることを、設計者は疑っていない。まちが変わりゆくその先を、審査員全員が一緒に見たいと思っている。

渡辺節賞を受賞した「奈良の家」は、爽やかな作品だった。目新しい形態も特別な素材も用いていない。しかし、訪れた住宅には、既存のものを洗練させたり縮こまったりするのは違う、形を考え、物をつくることの楽しみがあふれていた。1970年頃に宅地として開発された敷地は読み直され、敷地にあった石や植栽は生き生きとよみがえっている。若さにもかかわらず完成度が高く、その中に若々しさがあふれている。建築家・渡辺節の名を冠した賞に、これほど値する作品もそうないだろう。

## ■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 大阪中之島美術館

設計者 遠藤克彦（株式会社遠藤克彦建築研究所）



遠藤克彦  
1970年1月生まれ  
1992年3月 武蔵工業大学(現・東京都市大学)工学部建築学科卒業  
1995年3月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了  
1995年4月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程進学

©Neoplus Sixten Inc.

1997年4月 遠藤建築研究所設立  
2007年10月 株式会社遠藤克彦建築研究所に組織改編  
2021年6月 国立大学法人茨城大学学術研究院応用理工学野都市システム工学領域 准教授  
2022年4月 国立大学法人茨城大学学術研究院応用理工学野都市システム工学領域 教授

[主な建築作品と受賞歴]  
2016年 第15回公共建築賞(豊田市自然観察の森ネイチャーセンター)優秀賞  
2023年 木材活用コンクール(茨城県大子町新庁舎)第1部門賞  
2023年 2022年度JIA日本建築大賞(大阪中之島美術館)  
2023年 第3回日本建築士会連合会 建築作品賞(茨城県大子町新庁舎)奨励賞  
2025年 第66回日建連表彰BCS賞(大阪中之島美術館)

建築位置／大阪市北区	施工者／銭高・大鉄・藤木特定建設工事	構造／S造	建築面積／6,680.56㎡
建物用途／美術館	共同企業体	階数／地上5階	延床面積／20,012.43㎡
建築主／大阪市	竣工年月／2021年6月	敷地面積／12,870.54㎡	撮影 上田 宏

〈審査講評〉 収蔵庫や展示室など閉ざされる宿命の大きな箱と複雑多岐なプログラムを内包しながら、都市に対して広く開放するという命題を、都市の文脈から着想を得た正面性のない「地形」と「四角い塊」で解く、離れ業的デザインである。立体的に構成されたパッサージュを行き来し、作者が拘りぬいたモジュールと素材が醸し出す緊張と緩和を体感すると、来るたびに新たな発見がある唯一無二の場所でありながら、普段通りの街中にいるような安心感が感じられる。(審査委員 田口雅一)

## ■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 マツオコーポレーション本社ビル

設計者 出江 潤・浅野大輔（株式会社ボラ設計）、笠井健太（株式会社マツオコーポレーション）、渡邊由美子（桑島由美子建築設計事務所）



建築位置／大阪府茨木市  
建物用途／事務所  
建築主／株式会社マツオコーポレーション  
施工者／株式会社デザインアシスト  
竣工年月／2023年9月  
構造／RM造  
階数／地上3階・地下1階  
敷地面積／424.15㎡  
建築面積／183.64㎡  
延床面積／581.82㎡

撮影 笹倉洋平

〈審査講評〉ブロック特有の質感とムラが光と合わさることで生み出されるやわらかく親しみのある内部空間が印象的であった。環境面でも有利な二重壁構造により可能となった大きな開口は立体的で豊かな空間のつながりをもたらしていた。建築の外観は存在感を放ちつつも、巧みな高低差処理や素材を統一したランドスケープによって、周辺の工場やヤードなどと調和のとれた景観を形成している。  
(審査委員 宮原克昇)



出江 潤  
1975年3月生まれ  
1999年4月 出江建築事務所  
2017年2月 株式会社浅野・出江建築事務所(現・株式会社ボラ設計)設立  
2022年4月 摂南大学理工学部建築学科 非常勤講師  
2026年4月 日本大学理工学部海洋建築工学科 非常勤講師

〔主な建築作品と受賞歴〕

2018年 関西建築家新人賞／佐井寺のハナレ  
2019年 SDレビュー入選／かぎりなく本設にちかい仮設  
2025年 日本建築家協会 優秀建築選、日本空間デザイン賞銀賞／マツオコーポレーション本社ビル  
2026年 日本建築学会 作品選集、日本建築家協会 環境建築賞入選／マツオコーポレーション本社ビル



浅野大輔  
1971年8月生まれ  
2004年4月 有限会社RAD設計  
2011年12月 浅野セッケイ室開設  
2017年2月 株式会社浅野・出江建築事務所(現・株式会社ボラ設計)設立

〔主な建築作品と受賞歴〕

2019年 SDレビュー入選／かぎりなく本設にちかい仮設  
2025年 日本建築家協会 優秀建築選、日本空間デザイン賞銀賞／マツオコーポレーション本社ビル  
2026年 日本建築学会 作品選集、日本建築家協会 環境建築賞入選／マツオコーポレーション本社ビル  
2026年 日本建築家協会近畿 住宅部会賞／時代を眺める家



笠井健太  
1987年4月生まれ  
2011年3月 大阪教育大学教育学部卒業  
2013年3月 大阪工業技術専門学校建築学部II部卒業  
2012年 株式会社KIS入社  
2015年 設計事務所IUE入社

2017年 株式会社浅野・出江建築事務所(現・株式会社ボラ設計)入社  
2018年 株式会社マツオコーポレーション入社

〔主な建築作品と受賞歴〕

2025年 日本建築家協会 優秀建築選、日本空間デザイン賞銀賞／マツオコーポレーション本社ビル  
2026年 日本建築学会 作品選集、日本建築家協会 環境建築賞入選／マツオコーポレーション本社ビル



渡邊由美子  
1976年8月生まれ  
1999年3月 京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科卒業  
2001年3月 京都工芸繊維大学工芸科学部研究科造形工学

専攻博士前期課程修了

2001年4月-2006年3月 有限会社桃李舎  
2009年11月- 桑島由美子建築設計事務所開設

〔主な建築作品と受賞歴〕

2005年 日本建築協会第52回青年技術者選考

## ■渡辺節賞部門 渡辺節賞 奈良の家

設計者 金井田雄介



金井田雄介  
1991年12月生まれ  
2010年3月 兵庫県立尼崎工業高等学校建築科卒業  
2010年4月 日建設計入社  
現在、同社設計部門 アンソシエイト

〔主な建築作品と受賞歴〕

城東区複合施設、ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンター、龍谷大学 大宮キャンパス 東翼(2020年日本建築学会作品選奨、2019年大阪建築コンクール大阪府知事賞、2020年賞賛金賞経済産業大臣賞、2020年日本建築家協会優秀建築選)、淀屋橋ゲートタワー

建築位置／奈良県生駒市  
建物用途／戸建住宅  
建築主／金井田雄介  
施工者／榎谷建築生活造形室  
竣工年月／2024年11月  
構造／W造

階数／地上2階  
敷地面積／330.76㎡  
建築面積／93.85㎡  
延床面積／113.16㎡

撮影 金井田雄介

〈審査講評〉50年前に開発された閑静な宅地に建つ設計者の自邸。敷地際に従前の石垣・季節を感じる木々・庭石を残し、その庭石と呼応するように建物を雁行させ、パブリックゾーンを配し開放的な空間とするとともにプライバシーを確保している。また、随所に快適性を高める細かな工夫を凝らされるとともに、維持管理にも配慮がなされ、月日を重ね味わいが出ることが想像できる。  
(審査委員 浅尾 宏)

## ■大阪府知事賞部門 特別賞 2025年日本国際博覧会 大屋根リング

設計者 藤本壮介（株式会社藤本壮介建築設計事務所）、下田康晴・神吉良輔（株式会社東畑建築事務所（東畑・梓設計共同企業体））、黒川宗範・三谷勝章（株式会社大林組）、加地則之（清水建設株式会社）、鈴木星穂（株式会社竹中工務店）



撮影 Iwan Baan



©Jan Buus

藤本壮介  
1971年8月生まれ  
1990年4月 東京大学工学部建築学科入学  
1994年3月 東京大学工学部建築学科卒業  
2000年 藤本壮介建築設計事務所設立/現在に至る



下田康晴  
1982年10月生まれ  
2005年3月 広島大学工学部第四類卒業  
2007年3月 広島大学大学院工学研究科修了  
2007年4月 株式会社東畑建築事務所入社/現在、同社設計室主管



神吉良輔  
1982年2月生まれ  
2001年4月 大阪大学工学部地球総合工学科入学  
2005年3月 大阪大学工学部地球総合工学科建築工学科目卒業  
2020年10月 株式会社東畑建築事務所入社/現在、同社設計室主管



黒川宗範  
1967年5月生まれ  
1992年3月 東京工業大学(現・東京科学大学)工学部建築学科卒業  
1994年3月 同大学大学院理工学研究科修士課程修了  
1994年4月 株式会社大林組入社/現在、同社設計本部大阪建築設計部長



三谷勝章  
1977年7月生まれ  
2001年3月 神戸大学建築学科卒業  
2003年3月 神戸大学大学院自然科学研究科建設学専攻博士課程前期修了  
2003年4月 株式会社大林組入社/現在、同社設計本部名古屋建築設計部長



加地則之  
1967年2月生まれ  
1996年4月 北海道大学理I系入学  
1990年3月 北海道大学工学部建築工学科卒業  
1990年4月 清水建設株式会社入社/現在、同社設計本部商業・複合施設設計部設計長



鈴木星穂  
1979年12月生まれ  
1999年 京都大学工学部建築学科入学  
2003年 京都大学工学部建築学科卒業  
2005年 同大学大学院工学研究科建築学科修士課程修了  
2005年 竹中工務店入社/現在、大阪本店設計部設計第1部門設計1グループ長

建築位置/大阪市此花区  
建物用途/その他(歩廊)  
建築主/公益社団法人2025年日本国際博覧会協会  
施工者/大林組・大鉄工業・TSUCHIYA 共同企業体  
清水・東急・村本・青木あすなる共同企業体  
竹中工務店・南海辰村建設・竹中土木共同企業体

竣工年月/2025年2月 構造/W造  
階数/地上2階

敷地面積/88,433.86㎡ 建築面積/61,035.55㎡ 延床面積/66,900.02㎡

〈審査講評〉万博という機会を活かし、それまで日本人にとって馴染みの薄かった大規模木造建築の存在を、一気に周知のものとした功績は大きい。建設から解体に至る過程までを含めた計画、大手ゼネコン各社の協力体制、大規模緑化への取り組みなど、今回得られた多くの経験が、今後の建築の発展に寄与することも期待される。  
(審査委員長 倉方俊輔)



〈審査講評〉都市の時間性はファサード/ランドスケープにあらわれる。界壁を第2のファサードとして読み替える、ただそれだけで、隠れていた長手断面はまちに開かれ、隣地は親密な広場としてあざやかにあらわれる。上下階で異なる建具列の動きが、それを強く印象付ける。「立ち寄り場」という構想を支える広場は、駐車場の貸し借りにより生まれた民/民による時間制の共有資源だ。潜在する共有資源を顕在化させるこの建築的操作は、まちを変えていこう。地域に入る決断をした彼らによる新しいファサード/ランドスケープの誕生と、その射程の広さを高く評価したい。  
(審査委員 松本尚子)

## ■大阪府知事賞部門 奨励賞 鶴橋の立ち寄り場 ヨルン

設計者 山口陽登（株式会社YAP一級建築士事務所）



©Kenji Togo

山口陽登  
1980年8月生まれ  
2003年 大阪市立大学工学部建築学科卒業  
2005年 同大学大学院修士課程修了  
2005年-株式会社日本設計(2013年まで)  
2009年-2021年 大阪市立大学 非常勤講師  
2013年-2019年 シナリ建築設計事務所 主宰  
2019年-YAP.Inc CEO/Architect(法人化により社名変更)  
2021年-大阪市立大学(現 大阪公立大学)工学部建築学科 講師

〔主な建築作品と受賞歴〕

2021年 JIA関西建築家新人賞(一乗寺の住宅)  
2021年 環境・設備デザイン賞 建築・設備統合デザイン部門 優秀賞(伊方町観光交流拠点施設 佐田岬はなはな)  
2020年 グッドデザイン賞(安田株式会社 名古屋支店)  
2017年 住まいの環境デザインアワード2017 入賞(神田淡路町の住宅)  
2014年 SDレビュー2014 鹿島賞(CONSTANT APARTMENT)

建築位置/大阪市生野区  
建物用途/立ち寄り場兼ショールーム、集会所、ギャラリー  
建築主/株式会社YAP一級建築士事務所  
施工者/株式会社YAP一級建築士事務所(施工協力:豊城ウェルハウス株式会社+大阪公立大学建築デザイン研究室)

竣工年月/2025年11月  
構造/W造  
階数/地上2階  
敷地面積/47.27㎡  
建築面積/43.91㎡  
延床面積/81.63㎡

撮影 KENTA HASEGAWA

# 動静レポート

## 会長動静

- 4/29 淡輪山荘事業協議
- 5/1 ひと部屋断熱・耐震WG
- 5/7 日本建築センターとのミャンマー技術支援会議
- 5/8 淡輪山荘事業協議  
大阪府収用委員会意見交換会
- 5/13 賛助会員企業意見交換会
- 5/15 正副会長会議、運営会議
- 5/19 釜山広域市建築士会・新北市建築師公會歓迎会
- 5/20 定時総会
- 5/21 大阪府宅地建物取引業協会総会
- 5/22 奈良県建築士会総会

## 令和8年度定時総会と行事の開催

5月20日にKKRホテル大阪で定時総会を開催し、総正会員数1,989名に対して1/3以上となる718名（うち委任状639名）の出席で定款第17条に照らして成立しました。

### ◇第1号議案（令和7年度事業報告）

令和7年度に実施した公益目的事業（公1・公2・公3）、収益事業、その他事業について、運営会議・社会貢献（業務・地域・建築情報）・建築表彰・研修・記念行事の部門別に報告し、承認されました。

### ◇第2号議案（令和7年度財務報告）

貸借対照表に基づき、資産の部で流動資産と固定資産を合わせた資産合計は120,111,300円、負債の部での合計は39,202,772円、正味財産合計は、11,774,105円増して、80,908,528円を報告しました。

正味財産増減計算書による経常収益合計は173,279,078円、経常費用合計は161,504,973円、当期経常増減額は11,774,105円になります。

経常収益では、前年と比較し正会員費や応急危険度判定業務、行政受託業務等が減少したものの、特別事業となる全国大会による管理費用の負担等が要因となり約1,100万円の当期増収となりました。

公益法人を満す条件は3点あり、1点目

は経常費用計で合計額に対して、公益目的事業小計が50%以上になっていること（7年度の公益目的事業比率は63.3%）、2点目は当期経常増減額で公1・公2・公3及び小計欄がマイナスであること、3点目は収1事業の収益と費用の差引利益額の一部を公益目的事業会計に振替えたあとの当期一般正味財産増減額において、公益目的事業会計の小計がマイナスになっていることです。以上の条件3点がすべて満足されて令和7年度の決算において、本会は公益社団法人としての基準を満足したことを報告し、承認されました。

### ◇監査報告

理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められなかったとし、今後も本会事業の詳細が明確に分かる各種書類の作成を理事、委員一同に要請しました。

### ◇第3号議案（令和8年度役員選任）

理事及び監事候補者選考委員会の推薦により理事会で承認された理事候補者の25名、外部理事1名が総会において選任され、令和8年度の構成は留任の理事21名、監事2名、外部監事1名を合わせて役員50名となりました。また、本議案の承認に伴い、上田茂久氏が新会長に就任されました。

### ◇第4号議案（名誉会長委嘱）

岡本森廣氏は、平成24年度より令和7年度まで7期14年に亘り本会会長として会務に精励し、本会の発展に多大に寄与されましたので、本会定款第26条の2の規定に基づき名誉会長に就任されました。



岡本森廣名誉会長



上田茂久会長

本誌4ページより岡本名誉会長、上田会長からのご挨拶を掲載しております。

## ■式典

大阪府 吉村洋文知事、大阪市 横山英幸市長、釜山広域市建築士会 カン・ミスク会長、新北市建築師公會 オウ・シュンナン理事長よりご祝辞を賜りました。



カン・ミスク会長



オウ・シュンナン理事長

## ■表彰式

名誉正会員称号、栄誉・永年会員、CPD制度表彰の会員表彰と、第69回大阪建築コンクール、第18回建築人賞の建築作品表彰を行いました。受賞作品の詳細は、大阪建築コンクールは本誌8ページより、建築人賞は本誌7月号に掲載いたします。

## ■記念講演

建築家の新居千秋氏（株）新居千秋都市建築設計代表取締役）をお迎えし、「私の建築と時代」というテーマで、これまで影響を受けられた人物や時代についてご講演いただき大変好評を博しました。



新居千秋氏

## 【お詫びと訂正】

前月号16ページに掲載いたしました記事に誤りがございました。ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げますとともに、以下の通り訂正させていただきます。

（訂正箇所）「萬川幹夫理事が令和8年度憲法記念日知事表彰を受賞」記事中

（誤）一級建築士資格の取得後23年間

（正）一級建築士資格の取得後33年間

## 大阪避雷針工業神戸営業所 建築デザイン講習会

日程：令和8年4月21日(火)

会場：竹中工務店神戸支店、大阪避雷針工業神戸営業所

参加者：40名

大阪避雷針工業神戸営業所は、当初解体し建替える予定だった築35年の既存建築を、躯体と外装を残して再利用し、スクラップ&ビルドを超える価値の再生(リジェネレート)を目指したプロジェクトです。

今回の建築デザイン講習会では、この建物の設計担当者を講師に迎え、この建築に込めた想いや技術についてお話頂きました。建築設計を担当された、竹中工務店大阪本店設計部の山崎篤史さん、大石幸奈さんから、この建物と同時期に二人が携わられた、大阪・関西万博の休憩所「森になる建築」の紹介があり、建築の「寿命」をつないでいくという、共通の思想が展開されます。時がつくる価値を既存建物の中にも見出し、経年変化を経年美化としてポジティブに捉え価値再生させる事が、成熟社会の建築が目指す方向であると語って頂きました。

次に、構造設計を担当された、村上友規さんより、既存躯体を活用するために行った既存調査、そして不要となった部位の減築、軽くなった分で大庇を吊下げ増築するという設計ロジックと技術を説明頂きました。

そして講義後は、現地建物に移動し、「つなぐ減築、ひらく増築」の思想をひも解く、各空間の設計、周辺との関わり、既存躯体の荒々しい見せ方や、素材感、納まりへのこだわりに至るまで、講師の方々との会話を交えながら、建物をじっくり視察しました。

私自身、これまでの設計経験や建築士会のヘリテージマネジャー講座受講を通して、文化財や既存建物の活用には、①所有者の意志、②改修設計者の創意工夫、③社会との接続、④継続する仕組みといった要素が大切であると考えています。今回の建物では、所有者と設計者が同じ方向を向き、熱意と努

力を重ねて各要素へ応え、新築にはない改修の良さが実現されていました。

参加された皆様からは講義・現地視察で多くの質問や感想を頂きました。建築ストックに対する思想からものづくりのディティールまでを考える有意義な機会になったと感じております。本講習会を無事に開催することができ、講習会に協力頂いた大阪避雷針工業様をはじめ、講師の皆様、後援団体の皆様、参加者の皆様に対して、この場を借りて心より御礼を申し上げます。



戸田忠秀(研修委員会 委員)



## Talk Relay わたしの推し

### 「ITとAIが楽しい」

ChatGPT: IT(情報技術)とAI(人工知能)一言でいうと、ITは「道具やインフラ」であり、AIはその道具を「賢く動かす頭脳」のような関係です。

Gemini: ITは「情報を扱うための技術全般」、AIは「その中で、人間の知的な判断や学習を行う技術」と考えると整理しやすいです。では、AIで問いかけをします。「プロンプト」と言いますが、手順を明確にすると望みの回答が出ます。「タイトル」・「聞きたい内容」・「何をしたいか」・「ほしい結果」。「報連相」とか「起承転結」などでまとめる事が大切です。そして、最初に文章で質問して内容が見えたところで、「画像をお願いします。」と入力すると思った以上の画像が作成されます。実際に作成された画像を見てみます。

Gemini: 「ワイヤレス電力伝送」を備えたドローン駅。5Gから6Gへ進化すると、通信だけでなく「空間を通じた給電(ワイヤレス充

電)」の親和性が高まります。宇宙エレベーター型のタワーから給電:タワー(ドローン駅)の頂点からマイクロ波を照射し、飛行中のドローンに非接触でエネルギーを供給します。

メリット: ドローンは重いバッテリーを積む必要がなくなり、積載量が増え、24時間の連続飛行が可能になります。カプセルモジュールをユニット化して、必要に応じて部屋の内容を住居や緊急用の医療施設に入れ替えるとか考えてみました。

最後に、2025年関西万博で見てきた事について、「これからの大阪がどの様になっていきますか?小学生が得た視線から感じられ



### 村上栄司(建築情報委員会・国際委員会 委員)

る事。65歳以上の高齢者から見て感じた事と伝えたい事」についても聞いてみました。

- Gemini: 1. 小学生の視線: 「リアルな街が、まるで自由なゲームの世界に」  
2. 65歳以上の高齢者の視線: 「誰一人取り残さない、温かい先進都市」



AIの成長は、速く正確になって来ています。注意が必要な事は、回答に対して質問を繰り返して参考にする事です。動画がリアルで、音声もリアルです。まずは体験してみてください。今回は「ChatGPT」と「Gemini」を使用しました。

## 建築士会からのお知らせ

### 2026年版会員名簿の掲載事項について

8月号に同封予定の会員名簿の掲載事項は、①氏名、②勤務先名、③勤務先住所・電話番号、④建築士級別(正会員のみ)となっております。つきましては、

A. 氏名以外(②～④)を掲載しない。

B. ③に自宅の連絡先を掲載する。

C. 氏名を含め一切掲載しない。ホームページの名簿からも削除。

上記A～Cのいずれかをご希望の場合は、6月12日(金)までに本会事務局へメールかFaxにてご連絡ください(既にご連絡済の場合は不要です)。

e-mail: info@aba-osakafu.or.jp

FAX: 06-6943-7103

### 令和8年度 建築士定期講習

6/12、7/17、7/29、8/26、9/16、10/16、11/19、12/11、1/27、2/10、3/24

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和5年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

#### ▼日程・会場・定員

※6/12(金) 大阪府建築健保会館 70名  
※7/17(金) (公社)大阪府建築士会 会議室 30名

7/29(水) (一社)大阪府建築士事務所協会 会議室 20名

※8/26(水) 大阪府建築健保会館 70名  
9/16(水) 大阪府建築健保会館 70名

※10/16(金) 大阪府建築健保会館 70名  
11/19(木) 大阪府建築健保会館 70名

※12/11(金) 大阪府建築健保会館 70名  
1/27(水) (一社)大阪府建築士事務所協会 会議室 20名

※2/10(水) 大阪府建築健保会館 70名  
3/24(水) 大阪府建築健保会館 70名

上記すべてDVD講習です。

※の日程:大阪府建築士会が運営

※以外の日程:大阪府建築士事務所協会が運営(注)各回定員に達し次第、受付を終了します。

時間 9:15～17:00(各講習日共)

受講料 12,980円(消費税含。事前入金)

申込 建築技術教育普及センターHPより

### 既存住宅状況調査技術者講習

新規講習7/29、10/28

更新講習6/26、9/15、11/12、2/19

CPD新規5単位、更新2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみ認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。令和5年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。

#### ▼新規講習(DVD)

日時 7/29(水)、10/28(水)

9:30～17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込21,450円

郵送申込22,000円

#### ▼更新講習(DVD)

日時 6/26(金)、9/15(火)、11/12(木)、2/19(金)

13:30～17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込17,000円

郵送申込17,600円

▼申込 日本建築士会連合会HPよりお申込みください。上記以外にオンライン講習も開催いたします。

### 既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(一般診断法)

8/7、10/29、11/17、1/29、2/25

CPD各4単位

本講習会は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断・改修の補助を受けることができる技術者の養成を目的としています。2026年1月にテキストの改訂があり、一般診断法の必

要耐力および保有する耐力の計算方法が変更されました。過去に受講された方におかれましても本講習を再度受講され、最新の技術を業務に活用されますようご案内いたします。

日時 8/7(金)、10/29(木)、11/17(火)、

1/29(金)、2/25(木)

10:00～15:50

会場 大阪府建築健保会館

定員 80名(定員に達し次第締切)

受講料 会員5,000円 一般9,000円

テキスト代 9,900円

[2025年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法]

### 既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(限界耐力計算法)

8/19 CPD4単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法です。なお、講習会の修了者名簿は大阪府及び府内全市町村・関係団体等に常備し、耐震診断を希望する建物所有者等からの問合せに活用します。

日時 8/19(水) 10:00～15:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 会員6,000円 一般8,000円

テキスト代 4,000円

[大阪府 木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル](2023年10月改訂版)

### 令和8年度監理技術者講習

9/18、11/11、1/13、3/19 CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、実務に役立つ情報を提供いたします。

日時 9/18(金)、11/11(水)、1/13(水)、3/19(金)

各8:55～17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 各回30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込み9,500円

郵送申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会HPより



Informationの詳細及び申込みは大阪府建築士会ホームページに掲載しています。  
<http://www.aba-osakafu.or.jp/> メール [info@aba-osakafu.or.jp](mailto:info@aba-osakafu.or.jp)  
 TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

**IHI インフラスクエア堺新事務所  
 建築デザイン講習会**  
 6/17 CPD2単位予定

鉄骨造の鋼材は全てあらわし、板取りして製作した鋼板のサイン、カテナリー曲線を描くワイヤーで吊った照明など、鉄の質感と技術力を来客にさりげなく伝えるデザインが楽しい建築。堺の臨海部の工場群に新たな風景を作っている、橋梁・水門事業を手掛ける企業の新社屋を見学します。

日時 6/17(水)  
 14:45~17:10(集合受付14:30)  
 受講料 会員2,500円 後援団体3,500円  
 一般4,500円  
 集合場所 IHI インフラスクエア正門前  
 定員 30名

**第2回建築プロジェクトの当事者参画を  
 推進する「TOJISHA-UDプラットフォーム」  
 主催セミナー in豊中**  
 6/26 CPD4単位予定

国土交通省住宅局は昨年6月に「建築プロジェクトの当事者参画のガイドライン」を策定し、同時に2030年には、都道府県・政令市等の公共特別特定建築物の設計段階に於いて、100%の当事者参画を目標に掲げています。

これらの動きを加速させようと、日本福祉のまちづくり学会を中心に、日本建築士会連合会他、各種関連団体の協力により立ち上げた「TOJISHA-UDプラットフォーム」の第2回目のセミナーを開催致します。豊中市をはじめ、関西地区の当事者参画の取り組み報告とシンポジウムを行います。当事者の社会参加に大きく影響する建築空間に関わるプロとして、我々建築士は大きな役割を担っています。

多くの皆様のご参集を期待致しております。  
 日時 6/26(金) 13:00~17:00  
 会場 豊中市地域共生センター西館  
 (オンライン併用)  
 参加費 会員(共催団体含む)2,000円  
 一般3,000円 学生1,000円  
 主催 日本福祉のまちづくり学会  
 『TOJISHA-UDプラットフォーム』  
 +当事者参画とUD評価特別研究委員会

共催 日本建築士会連合会、大阪府建築士会、  
 日本視覚障害者団体連合、DPI日本会議  
 後援 国土交通省、文部科学省、大阪府、豊中市 他  
 申込先 TOJISHA-UDプラットフォーム事務局  
<https://tojisha-ud2026toyonaka.peatix.com>  
 申込締切 6/12(金)

**AIを活用した共創ワークショップ  
 ~老舗旅館を救え!~  
 ケーススタディで考える、再生プロジェクト**  
 6/27 CPD2単位予定

建築士の「空間価値創造力」と中小企業診断士の「事業価値創造力」を掛け合わせ、積極的にAI活用し、双方の連携による新しい価値創造プロセスについて演習を通じて実践的に体感します。

日程 6/27(土) 14:00~16:00  
 会場 大阪府建築士会 東会議室  
 受講料 会員2,000円  
 中小企業診断士2,000円  
 一般3,000円  
 定員 32名(申し込み先着順)

**全国女性建築士連絡協議会(東京)  
 未来へつなぐ「まち・ひと・建築」  
 ~対話から生まれるかたち~**  
 7/19、7/20

日本建築士会連合会 女性委員会では、「未来へつなぐ『まち・ひと・建築』」~対話から生まれるかたち~をテーマに、令和8年度第35回全国女性建築士連絡協議会(東京)を東京会場とオンラインの両方で開催します。

基調講演では「対話が紡ぐ環境デザイン 未来へつなぐ風、光、熱のかたち」と題して、建築家・SUEP 末光弘和氏、末光陽子氏にお話しいただきます。被災地報告は、宮城県建築士会の報告と、活動報告として京都府建築士会、長野建築士会の発表を予定しています。

日時 7/19(日) 13:45~17:00  
 開会式・被災地報告・活動報告・基調講演  
 交流会(17:00~)  
 7/20(月・祝) 9:00~12:00  
 分科会・全体会

男女を問わずご参加いただけます。  
 会場 日本建築学会建築会館  
 東京都港区芝5丁目26-20  
 参加費 会員:会場参加3,000円  
 オンライン参加1,500円  
 一般:現地参加4,000円  
 オンライン参加2,500円  
 学生:無料  
 申込締切 6/12(金)

**もう一度学ぶ パーテーションの基本**  
 7/24 CPD2単位予定

オフィスや病院、学校など、あらゆる施設で目にするのが多いパーテーションですが、端部の納まりやLGS壁との取り合いなど、設計上で気になる点が多々あると思います。そこで今回は、施工方法から最近のトレンド製品まで、パーテーションの基本を学んでいただける機会をご用意しました。お時間のある方はショールーム見学にもぜひご参加ください。

日時 7/24(金)  
 ①ショールーム見学 15:00~16:45  
 (集合14:50)  
 ②CPD講習 17:00~18:30  
 (集合16:50)

会場 小松ウオール工業 大阪ショールーム  
 参加費 会員1,000円 一般2,000円  
 定員 30名

**第4回 賛助会員と会員建築士の親睦を図る  
 納涼・懇親会  
 交流から生まれる新しい価値**  
 8/7

本会会員の皆様と賛助会員の皆様に何をしている会社、何を作っている会社、何を売っている会社などのアピールをしてもらいます。情報交換をフランクに行えるよう親睦懇親会という形式で企画させていただきました。是非お気軽にご参加ください。

日時 8/7(金) 18:30~  
 会場 ブライトンベル 御堂筋店  
 参加費 6,000円程度 予定  
 定員 50名

## ウクライナの建築と文化を学ぶ 第3弾

### ウクライナの復興に、日本の『建築士』の知恵を —2025年、現地で見た再生への渴望—

国際委員会 部門長 荻窪伸彦



第3弾となる「ウクライナの建築と文化を学ぶ」は、建築士会の国際委員会に所属する松富さんを講師として迎えました。2025年7月にウクライナの地を訪れた講師が目撃した、物理的破壊の現実とその奥にある文化や日常の断絶という現地のリアルな体験をもとに、日本の建築技術やまちづくりのノウハウが、ウクライナの再生に対して、どのように支援に結びつけられるか、我々に問いかけてきました。また、建築士会と協働調印を行ったウクライナ全国建築家連合(NSAU)やリヴィウ国立工科大学の研究者らとオンラインを通じて直接対話する機会も設けた有意義なセミナーでした。

#### 1.空間の断絶と連続性を見つめて —ウクライナで見た「継承」という建築行為

松富さんは、もちろん直接ウクライナの空港には行けませんので、ポーランド経由の列車でウクライナに入りました。ウクライナでは首都キーウ、リヴィウ、カルパディアのリーチ村などを訪問されました。現地の被災状況を見るだけでなく、積極的に人々との交流を行い、ウクライナ人の心の奥にある思いや不安をも探ってこられました。

キーウでは、戦禍の残骸がそこかしこに見られるなかで、市民は通常の生活を行うことに努めている姿が見られたといいます。戦下であっても市民は生きていかなければいけ

い。子どもを育てていかなければいけない。子どもたちに悲しい思いだけをさせてはいけません。そのようなウクライナ人の気質を感じられたといいます。

リヴィウでは、リヴィウ国立工科大学の保存研究者たちとも意見交換を行い、歴史的建築群の復興に対する方針やその方法を学んでこられました。それは建築を単にもとに戻すだけでなく、今回の事象をレガシーとして後世にどのように遺すかも大きなテーマであったといいます。また、リハビリテーション施設「UNBROKEN」の訪問では、戦争によって四肢を失った若者たちが社会復帰を目指す、医療空間を超えた「ケアの建築」であったとい

います。自然光で明るい室内、バリアを感じさせない柔らかな動線、そしてスタッフの人間的な対応が生み出す心理的安心感。建築と人の関わりが一体となってリハビリを支える姿に、建築士としてこのような空間が傷ついた戦士の治癒力を増すのだと実感されました。リーチ村は、ウクライナの西部にあり、戦禍を免れている地域です。そこには、日本ウクライナ文化交流協会の小野会長が尽力された、避難施設があります。失われた生活基盤を一時的に補うだけでなく、再生した古民家空間が人々の心の支えとなることを示す象徴的な事例といいます。

松富さんは、ウクライナの都市や建築は今、破壊と再生の狭間で揺れている。そのなかで私たちに課せられた使命は、断絶を癒やし、連続性を再び編み上げることであると締めくくられました。

#### 2.ウクライナ建築士との意見交換

ウクライナからは、主に次の方がリモート参加されました。(敬称略)

アンナ・キリー(NSAU副会長)

オルガ・テレフェエワ(建築家)

ユーリー・クリヴォハトコ(建築家)

ヴォロディミル・メシュチェリャコフ(建築家)

オレナ・オリニク(国立美術建築アカデミー教授)

#### The Attacked On June 17



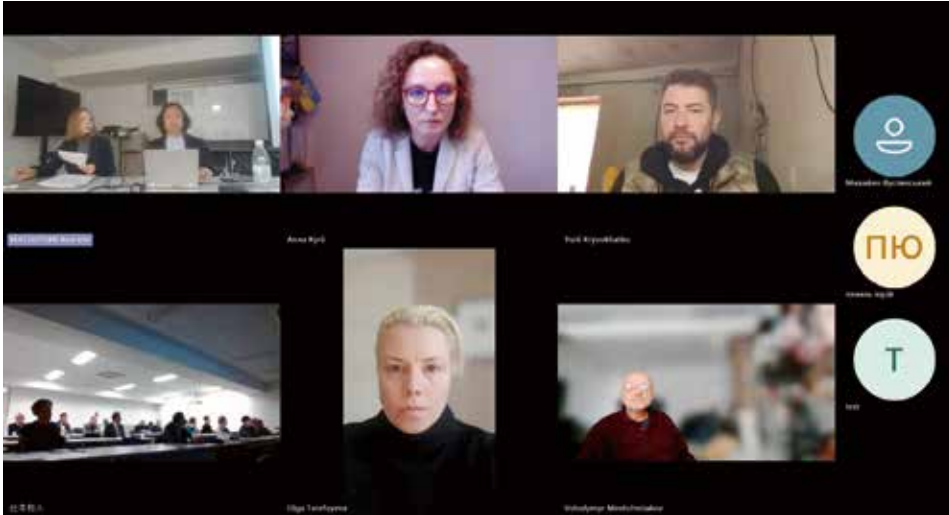
Photo by Gestem Charity Foundation

2025年6月17日の被災状況

#### UNBROKEN-Rehabilitation Center



リハビリテーション施設「UNBROKEN」



リモート会議の様子

彼らからは、今回の戦争で被害のあった学校の復興に関しての報告がありました。生々しい戦争の爪痕からの復興に対して、建築士として合理的かつ時間的に短時間での復興計画をたて、実施されているとのこと。戦禍を被った街、建築の復興は戦時中の今は、復興、改修してもまた被弾する危険性があります。永遠と終わりのない復興に関わっているのです。質疑応答の中では、日本の耐震技術に対し

て関心を示されていました。ただ、ウクライナは、地震の少ない国です。彼らのイメージとしては、爆弾による爆風に耐える建築技術も日本では知っているだろうという意味でした。

### 3.まとめ

建築士会は、昨年9月12日NSAUとの調印が大きな一歩となり、今回のセミナーで現地の建築家との意見交換ができました。戦争の終わりがいまだに見えない中、日本の建築士



被災を受けた学校の復興

がウクライナのために、何か協力できないかという我々の思いを彼らに届ける方策として、リモート会議は有意義な企画であったと思います。今後も頻りにNSAUとの意見交換を行っていきたいと思います。



- 開催日：2026年3月23日(月) 18:00~20:00
- 開催場所：大阪府建築士会東会議室
- 参加者：25名
- 講師：松富謙一(国際委員会 委員) ウクライナの建築家の皆様 (リモート参加)
- 通訳：ハンナ・ソロヴェイ
- プログラム：
  - 1.ウクライナ訪問の報告：松富謙一
  - 2.ウクライナの建築士との意見交換 (リモート会議)
- チラシ作成：北村ひとみ
- 記録：村上栄司



セミナー会場の様子

## 失われゆく都市デザインの思想と哲学

旧・横浜市庁舎(現・OMO七横浜) 一九五九年竣工／二〇二六年改修

文・写真 松隈 洋 [神奈川県立横浜国立大学建築学専攻教授]

どのような検討と議論を経て、このような結果が導き出されたのだろうか。現場を訪れてみて、やはり強い違和感を抱かざるを得なかった。

二〇二六年四月二十一日、JRR根岸線の関内駅前にあった旧・横浜市庁舎の行政棟(地上八階、地下一階)を改修し、星野リゾートの運営する客室数二七六室の都市型ホテル「OMO(おも)七横浜」が開業した。しかし、これは、村野藤吾の横浜市庁舎(行政棟・議会棟・市民広間)の建っていた街区



東側から見たホテルと超高層ビルの外観



ホテルのロビーに移設された市民広間の階段

定の都市再生特別措置法という国の政策である。それにしても、どんな経緯で計画は進められてきたのか。

二〇二五年八月五日、横浜市は、『旧横浜市庁舎行政棟』を戦後建造物で初の歴史的建造物に認定し、保全活用を進めます！村野藤吾設計のモダニズム建築がホテルとして再生」と題する記者会見資料を発表する。続く本文では、計画の経緯について次のように説明されていた。

「旧市庁舎街区の土地活用の検討において、市民から横浜らしい文化や景観の継承のため市庁舎建造物の保存活用を求める声が多く寄せられ、旧横浜市庁舎行政棟の活用を基本とした事業公募を実施しました。その結果、行政棟の現位置での保存やくすのき広場の再生、景観デザインの工夫など、横浜らしさを活かした提案が高く評価され、行政棟をホテルとして活用する計画が選定されました。」

文中の「事業公募」とは何か。それは、二〇一九年一月、「現市庁舎街区活用事業募集要項」による「公募型プロポーザル方式」で事業者を募るものであり、「主旨」には、「市庁舎移転後の関内・関外地区の賑わいの創出を図るため、民間活力により、現市庁舎街区の有効活用を行ないます」と謳われていた。しかし、既存建物の「保存活用」か「解体」の選択は任意であり、何ら保存の基準も示されてはいなかった。すなわち、結果的に行政棟を保存してホテルに活用する案が選ばれたに過ぎない。そして、先の横浜市の発表に合わせて、同日に再開発を共同で進めた事業者が発表されたプレスリリースでは、「記憶の継承、

新旧融合―保全活用としての評価」として、次のように宣伝されたのである。

「今回、横浜市の認定を受けるにあたり、横浜国立大学・吉田鋼市名誉教授より、『長きにわたり地域のシンボルであった旧横浜市庁舎行政棟の保全と活用により新旧が融合した新たな都市のランドスケープが形成され、地域の歴史を継承し、地域の景観形成上の重要な要素となる』と評価をいただきました。」

このことは何を意味するのか。実は、筆者は、二〇二四年四月、横浜市都市整備局都市デザイン室からの依頼を受けて、歴史的建築物の保存活用などを検討する「歴史的景観保全委員連絡調整会議」に加わっていた。ところが、直後の五月、都市デザイン室の担当者から突然連絡が入り、旧・横浜市庁舎を「戦後建造物で初の歴史的建造物に認定し、保全活用を進めます！」との方針から、認定に必要な「現地調査と所見の執筆」を依頼される。これには、心底驚いた。だが、躊躇せずに、「この建築を歴史的建造物に認定することは、二十三年間にわたり、京都市芸繊維大学において、遺族から寄贈された約五万点に及ぶ設計原図をもとに、たくさんの方々との関係者と学生たちと共に、十四回の展示会を開催し、横浜市庁舎を含む村野建築の歴史の評価を続けてきた立場からは、どうしても納得できない」として、所見の作成を断つたのである。

そして、続く六月にこの議題を初めて取り上げた委員会でも、「耐震改修を施して大切にしてきた庁舎を安価で民間に売却し、大規模な再開発を推進した事業そのものが住民訴訟となって争われている最中に、歴史的建造物に認定

する行為は誤りなので、反対です」と発言した。しかし、後に所見を記す吉田氏や他の委員から異論は出ず、黙殺された。無念だった。この認定は、再開発事業を承認してお墨付きを与えることであり、都市デザイン室の輝かしい歴史から見れば、完全にその精神と哲学を失ったことを意味すると思えたからだ。委員を辞任するしかなかった。一九六五年、横浜市は、『横浜の都市づくり―市民のつくる横浜の未来』と題された冊子を発行し、都市政策の指針となる提言を行っていた。

「都市は市民によってつくられる」この当然すぎるほど当然なことが忘れかけています。(…)都市が市民の自治によって、平等な権利をもつ市民によって動かされるという以上、(…)都市づくりは、権力者のためとか、特定の人の利益のために行なわれるものではありません。それは市民全部が安心して生活できるため、ゆたかに生活できるため、そしてその人々が、また明日の社会をつくってゆく力を養えるために行われるのです。」

この提言を踏まえて、飛鳥田一雄市長の下、都市プランナー田村明が、大高正人や榎文彦らの協力を得て推し進めたのが、都市デザイン室による多彩なアーバン・デザインの実践である。「都市は市民によってつくられる」という目標はどこへいったのか。健全な都市環境を次世代へ残せるのか。「高層建築は高度消費につながり、種々には危険性をはらむ」(『村野藤吾著作集』同朋舎一九九一年)と警鐘を鳴らした晩年の村野の言葉に込められた思いとともに今一度噛みしめておきたい。

# 「建築人賞」作品募集

# 2025年



審査委員長 古谷 誠章

早稲田大学 名誉フェロー 名誉教授  
NASCA代表

1955年 東京都生まれ  
1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒業  
1980年 早稲田大学大学院博士前期課程修了  
1986年 文化庁芸術家在外研修員として、スイスの建築家マリオ・ボッタ事務所(～1987年)  
1984年 (有)ナスカ(NASCA)設立  
1984年 早稲田大学理工学部助教授(～1987年)  
1997年 早稲田大学理工学部教授(現・創造理工学部教授)(～2025年)  
2017年 第55代 日本建築学会会長(～2019年)  
2020年 早稲田大学芸術学校校長(～2024年)  
2021年 東京建築士会会長(～2025年)  
2024年～ 日本建築士会連合会会長

## 「建築人Gallery」掲載作品は『建築人賞』の候補作品です。

公益社団法人大阪府建築士会は、会員サービスの一環として会報誌「建築人」を毎月発行しています。本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布し、発行部数は約3,000部です。「建築人」の誌上で「Gallery」の建築作品紹介コーナーを設け、現代建築の様相を反映できるものとして好評を博しており、毎年1月号～12月号のGalleryに掲載された作品が「建築人賞」の審査対象になります。

「建築人賞」は2009年に創設され、個人の審査委員長により選考し、表彰式は翌年5月の本会の定時総会で執り行われます。「建築人賞」「同賞新人賞」「同賞奨励賞」「同賞佳作」があり、「建築人賞」「同賞新人賞」の設計者には記念品が授与され、各賞の建築主、設計者、施工者にはそれぞれ賞状が贈られます。ぜひ本誌に皆様の建築作品の掲載をお願いいたします。



建築人賞



建築人賞新人賞



佐久間 靖 (ガラスアーティスト)

1971年 大阪府高槻市生まれ  
1996年 神戸学院大学 法学部 卒業  
1997年 関西クレールプロダクションガラスアーティスト 三浦啓子氏に師事  
2016年 関 Jiku Art Creation 作品制作に従事

## 「建築人」Gallery 掲載要項

### ■ 掲載概要

1頁カラー、写真4点程度、説明文300字程度

### ■ 掲載事項

- ・建築主、設計者、施工者、協力会社
- ・所在地、用途、竣工年、構造規模、敷地面積、建築面積、延床面積

### ■ 掲載料

110,000円(本体100,000円+消費税)

※1 初回割引 88,000円(本体80,000円+消費税)

(過去10年間で設計者及び施工者がGalleryに掲載されていない場合が対象です)

※2 若手初回割引 55,000円(本体50,000円+消費税)

(※1を満たす方のうち、40歳以下かつ建築設計事務所を主宰されている方が対象です)

### ■ 問合せ・申込み

公益社団法人大阪府建築士会事務局 担当:母倉

e-mail: info@aba-osakafu.or.jp TEL: 06-6947-1961 FAX: 06-6943-7103



4階よりパッサージュの中央吹抜け空間を見る



夜景（東側歩行者デッキより見る）